

# もしかしたら...と心配なあなたは



## 伝播確認地域への

### 渡航歴が力ギ

SARSの主な症状は、38以上の急な発熱、たんを伴わないせき、息切れや呼吸困難です。胸部レントゲン写真では異常所見がありませんが、最初に起こり得る症状で最も確実なものは、発熱です。

ただし、現在日本国内においてSARS患者が確認されていない状況から（平成15年5月22日現在）、SARS伝播確認地域からの10日以内の渡航歴者・帰国者、及びその方々との接触者以外のかたは、SARSの可能性は否定されません。

### 疑わしい症状がでたら

もし、伝播確認地域への渡航歴などがあり、SARSの様な症状がでたときには、まず医療機関に電話等で状況を説明してください。そして、受診方法（時間や場所など）を確認した上で、受診してください。受診の際はマスクを着用し、公共交通機関（バス、タクシー

1、電車など）を使用せずに、自家用車での受診をお願いします。

なお、連絡した医療機関で受診を受けられない場合には、大館保健所（☎52 3952）、大館市立

総合病院へご相談ください。

大館市立総合病院を受診希望のかたは、受け付け方法や待合場所

が通常と異なりますので、必ず受

診前に電話で受診手順の指示を受けてから来院してください

大館市立総合病院

☎42 5370

担当者

感染対策担当医師・高橋義博、

第一内科（呼吸器科）医師

吉田順一

医事課長・丸岡克男

## SARSに関するQ & A

Q1 . SARSはどのようにして感染しますか？

A1 . SARSウイルスは、SARSにかかっている人から周囲の人へと感染すると考えられ、動物を介して感染することを示す証拠はありません。これまでの疫学的検討から、最も感染の危険性が高いと考えられることは、SARS患者の看護・介護をしたか、それと同居をしたか、またはその体液や気道分泌物に直接触れたなど「SARS患者との濃密な（密接な）接触があったこと」です。

感染経路としては、患者さんにせきや肺炎などの呼吸器症状があることから、気道分泌物の飛まつ感染が最も重要だと考えられますが、種々のSARSの集団発生事例を疫学的に検討すると、それ以外の感染経路もありうると考えられます。飛まつによる感染が主たる経路と考えられるものの、手指や物を介した接触感染、ふん便からのふん口感染、空気感染の可能性なども、完全に否定することはできません。

Q2 . 日本でふつうの生活をしていれば、安全ですか？

A2 . ある国（あるいは地域）での伝播が確認された場合、その国（あるいは地域）ではSARSにかかる可能性があると考えられます。

日本は、現在（5月22日）まで国内でのSARSの伝播は確認されていませんので、100%安全とは言い切れませんが、危険は極めて少ないと考えられます。

Q3 . 感染した可能性のある時から何日たてば、心配はなくなりますか？（潜伏期間はどのくらいですか？）

A3 . 潜伏期間は通常2～7日間で、一部の例外を除きほぼ10日以内と考えられています。したがって、11日以上たっていて何の症状もなければ、ほとんど心配はないものと思われます。

国立感染症研究所感染症情報センターホームページ内  
（「ISDC緊急情報」の重症急性呼吸器症候群（SARS）に関するQ & Aから転載。）

4 潜伏期間  
病気に感染してはいるが、まだ症状として現れない期間。